

平成29年度 施策評価表

課・グループ名	まちづくり課企画情報グループ
---------	----------------

作成年月日：平成30年9月28日

施策名	5-(4)-② バス交通網の利便性向上		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	5. 安心して楽しく暮らせる快適な生活環境のまちづくり	(4) 安全、安心、便利な交通対策の推進	②バス交通網の利便性向上
①施策のねらいと展開方向	<p>●公共交通の充実を目指すため地域公共交通活性化協議会において町民ニーズの把握を行い、通勤・通学・町内巡回バスなどの運行について検討するとともに、地域公共交通総合連携計画に基づき、町内における公共交通空白地域の解消への取り組みや通勤・通学などの交通手段の充実に向けてバス事業者等に対し随時要望していきます。</p>		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<p>●通勤、通学者等の公共交通の充実のために、バス事業者に対し、運行経費に対する赤字補填を実施しています。</p> <p>●高齢者等の通院や生活のための町内巡回バスは、運行経費の負担が増えてきていることから、平成25年10月から、町内巡回バスを国の地域交通関係補助金に該当する路線として見直しを図りながら運行を継続しています。</p> <p>●地域公共交通の課題解決のため、国、北海道、交通関係者などで組織する、地域公共交通活性化協議会において将来における公共交通のあり方について検討しています。</p>	<p>●通勤・通学など町民ニーズにあった公共交通の充実を図る必要があります。</p> <p>●高齢化が進む中、町内における公共交通の空白地帯を解消し、あわせて町内の施設等を結び、地域活性化のための新たな交通体制の整備が必要です。</p>	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況							
① 成果指標	設定の意図			まちづくりの成果指標名			数値化
				成果指標 (総合計画・施策評価)			○ 可 能
				町内巡回バス利用者数			不可 未計測
				代替指標 ※成果指標がない場合			指標の設定
							可 能 不可 能
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
②指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H26	H27	H28	H29	H33	
目 標	人	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	アンケートや聞き取り調査からニーズに対応した運行を行い、利便性向上を図る。利用者は固定客が多く、利用者層や新規利用者の拡大が利用者増のポイントになる。
実 績	人	1,947	1,719	1,798	1,978		
達成率	%	97.4	86.0	89.9	98.9		
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点	
③施策の達成状況	A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)				施策の 達成度	<p>・町民の足となる交通手段の確保は、町の施策として必要であることから、今後も継続して実施し、公共交通の積極的な利用について、住民への啓発活動を図る。</p> <p>・巡回バスは、利用者ニーズの把握を行いながら、更なる利便性の向上を目指して、調査を進める。</p>	
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)						
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)				B		
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)						

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への 貢献度 <高い> <普通> <低い>		
事業 番号	事務事業名	種 類	所 管 課 名	成 果 指 標	評価年度(H29)		事務事業の内容	必 要 性	妥 当 性	事務事業 評価結果 (方向性)		事業費(千円)	
					目 標	単 位						H29実績	H30予算
					実 績								
1	生活路線等交通対策事業	(1)	まちづくり課	①町内巡回バス利用者数 ②運行する民間路線バス会社	① 2,000	①人 ②社	・国のリーダー系統補助を活用した町内巡回バスの運行 ・巡回バス利用者等のニーズの把握 ・町内における交通体制の研究 ・バス事業者への運行要請 ・地域公共交通活性化協議会における検討	Ⅲ	Ⅰ	1 現状のまま継続	1,924	2,383	
					② 3						① 1,979		①人 ②社
2													
3													
年度別施策全体の事業費合計(千円)													
											H29事業費	1,924	
											H30予 算	2,383	

②H30に実施した新規事務事業					
	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H30予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の妥当性 ・民間路線バス(中央バス・JRバス・夕鉄バス)が運行していない交通空白地域に、町内巡回バスを運行することにより、高齢者等の日常生活に利用されていることから継続して運行をしていく。 ・公共交通等の利用拡大を図るため、公共交通活性化協議会での協議・研究を継続する。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	B	

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)										
①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	【評価】	事業の 方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号						平成30年度以降 の予算の方向性	
	特に課題とすべき指摘事項はない。		A							
			B	1						拡大
			C							○ 維持
			D							縮小